

京都教区時報

第132号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨

編集 京都カトリック教理センター 住所 京都市左京区仁王門通新高倉東入 Tel 761-9095

) ナイス報告会中間報告 (



水と生きがい人洗礼を受く
人荒地を生きがい荒地に洗礼を授く
人荒地うつむかれて喜びあり

5月8日は広報の日です

テーマ

よろこびといのちとともにコミュニケーション

司祭評議会定例会議報告

審議事項

3、教区の優先課題

「適正配置」について

今までの経過を事務局から報告。

5月30日から6月2日まで、津
の研宗館で行う。
テーマは、「福音宣教する小教
区（共同体）」—京都教区として
の努力目標を決めよう—」

2、二条氏(セイジ)よりのレポート
ナイス参加者による報告会が各
地で行われていますが、その状
況について報告。(本号P3、P4参照)

いろいろ意見も出されたが、「適
正配置」という名称では、いろ
いろとむずかしい面があるので、
今後は、むしろナイスの答申の
柱Ⅲの提案4と提案5について、
教区のレベルで具体的に何がで
きるかを検討していくことにな
った。又、この件を宣教司牧評
議会に提案する。

'88年3月16日



1988年度京都教区宣教活動補助金承認額の報告

'88年1月30日 宣教司牧評議会

団体名称	団体会計	1986年度	1987年度	1987年度	1988年度	1988年度
責任者名	責任者名	承認額	申請額	承認額	申請額	承認額
三重県カトリック信徒連絡協議会	藤井 実 阪 久幸	800,000	880,000	880,000	760,000	760,000
京都府北部カトリック信徒連合会	伊藤 武志	66,537	251,140	251,140	279,205	279,205
京都カトリック学生連盟	川上 隆三	90,000	30,000	30,000	64,000	64,000
カトリックスカウトC.B.S京都教区支部	杉下 安雄	115,000	50,000	50,000	100,000	100,000
京都カトリック結婚互助会	山本 礴 藤田	100,000	100,000	25,589	0	0
奈良カトリック結婚互助会	前原 武男	130,000	135,000	128,365	135,000	135,000
京都キリストン研究会	藤井貞次 岡山 秋人	299,200	274,000	274,000	304,000	304,000
S.A.D.E若者のエンカウンター	Sr.花 岡	166,365	93,000	92,558	0	0
京都教区教会学校教師会	小川和寧 小川和寧	0	109,000	109,000	143,500	143,500
滋賀県教会学校教師会	篠田克己		0	300,000	316,000	316,000
指紋と人権を考える会	石原祐子		0	0	301,600	301,600
合計		2,932,102	2,222,140	2,140,652	2,403,305	2,403,305

宣教活動補助金承認額は、宣教司牧評議会補助金審査委員会で審査、承認さ
れたものです。この補助金は、特に超小教区活動、小さな団体、活動を対象に
し、その目的が京都ビジョンに合致しているなどの申請基準に該当している活
動に出されます。

チームを組んで報告会をすすめています

—ナイス報告会中間報告—



代表者13名、実行委員、広報担当、青年書記で
チームを組んでいます。

ナイスの準備段階から、各小教
区で会議の成果を伝えようという
意向は代表者会の中にありました
が、正式にナイスの派遣母体であ
る宣教司牧評から要請を受けて、
1月下旬から報告がスタートしま
した。5つのブロックでそれぞれ
日程を調整しながら、代表者13名
に実行委員、広報担当、青年書記
団が加わり、ナイスの会議に直接
参加できた恵みを教区全体に広げ
ようとチームを組んで順次報告会
が行われています。

○三月末現在で報告会の行われた所
に実行委員、広報担当、青年書記
団が加わり、ナイスの会議に直接
参加できた恵みを教区全体に広げ
ようとチームを組んで順次報告会
が行われています。

△京都北部△

網野教会・峰山教会・丹後大宮
教会・綾部教会・報恩寺教会・福
知山教会・北信連総会

△京都南部△

桂教会・西院教会・衣笠教会・北
白川教会・高野教会・伏見教会・八
幡教会・青谷教会・長岡教会・園部
教会・龜岡教会・山科教会・田辺教
会・宇治教会・南信協役員会・諸活
動団体代表の集まり・子羊会・カロ
ンデレットの聖ヨゼフ修道会・聖母
カテキスト会・南部司祭集会

△滋賀△

大津教会・彦根教会・草津教会

ナイスの準備段階から、各小教
区で会議の成果を伝えようとい
う意向は代表者会の中にありました
が、正式にナイスの派遣母体であ
る宣教司牧評から要請を受けて、
1月下旬から報告がスタートしま
した。5つのブロックでそれぞれ
日程を調整しながら、代表者13名
に実行委員、広報担当、青年書記
団が加わり、ナイスの会議に直接
参加できた恵みを教区全体に広げ
ようとチームを組んで順次報告会
が行われています。

△奈良△

4月からスタート
以上ですが、確認からもれている
所もあるかもしれません。

報告はミサの説教の時間を使つ
たり、ミサの後、質疑応答を交じ
えて行われています。多くの所で
時間は限られていますが、体験の
分かちあいもされているようです。

報告の内容はスライドや表を使
つたりして次のようにされています。
①ナイスの背景
②ナイスに至る準備のプロセス
③会議の概要、雰囲気、体験感想
④「共に喜びをもつて生きよう」
の説明
⑤答申の諸提案の説明
⑥寄せられた教区内の意見のまと
めと答申のつながり
⑦青年の活躍の紹介
⑧青年書記団として関った感想や
体験

「第一の柱で具体性を感じられない」「教会と社会との関わりがより身近に意識させられた」「特別提案を自分の立場の問題として積極的な姿勢でうれしい」「本音で分かちあうにはどうすればよいのか」

「共に喜びをについて
つたりして次のようにされていま
す。
「ひとりひとりの意識を変える」
「できる事からすすめていく」
「幼稚園や学校等との協力態勢を築いていく」「子供たちの養成を皆の力ですすめていく」

今後の取組みについて
「ひとりひとりの意識を変える」
「できる事からすすめていく」
「幼稚園や学校等との協力態勢を築いていく」「子供たちの養成を皆の力ですすめていく」

要請として
「教区レベルで福音宣教推進の目標を立て、必要な情報等を伝達していく機関を作つてほしい」と
現状の問題として
「教会は障害者に對して冷たい差別されている」

「教区レベルで福音宣教推進の目標を立て、必要な情報等を伝達していく機関を作つてほしい」と
現状の問題として
「教会は障害者に對して冷たい差別されている」

次に各報告会での教区の皆さん
の声を全部拾つてみますと
「活字でなく言葉で伝えてもらつ
てよい」
答申について

「第一の柱で具体性を感じられない」「教会と社会との関わりがより身近に意識させられた」「特別提案を自分の立場の問題として積極的な姿勢でうれしい」「本音で分かちあうにはどうすればよいのか」

ナイスが活かされますように。

(文責 二条)

ナイスを通して

広がりゆく青年の輪

ドミニコ女子修道院

初誓願式に参加して

中口尚子



3月28日ドミニコ女子修道会に

2人の新しいシスターが誕生した。ご家族の皆様と多数の友人、姉妹たちに囲まれ、おこそかな中にも和やかな雰囲気で行われた。そして、特にこの式の中で目をひいたのが、司教様の後の柱にしつかりくりつけられた「木の十字架」

だつた。

この「木の十字架」はナイス最終日の青年フォーカミサで掲げられていたもので、それをシスターたちがナイスが終った後青年たちからもらい、三条の河原町教会から修道院のある今出川までかついで帰ったといういわく付きのものだった。真っ白の修道服を着たシスターたちが丸木を持って歩く姿はさぞ大衆の目をひいたことだと思う。

また、この日平日にもかかわらず青年の姿が多くみられた。二人のシスターは小教区の日曜学校のリーダーとして、さらにナイスの時には青年書記団として活躍された。このような活動を通して、青年たちとの交流の輪が広がっている。誓願式のあと、シスターたちが青年の交流会を企画して下さり、丹後の青年4名、東京からお祝いにかけつけた6名、そして市内から3名と自称青年の越知師が加わりそれぞれが属している青年会のこと、ナイスのこと、特に書記団として直接関わってみて感じたことなど話題はつきず、時間を忘れて話し合うことができた。

ナイスに青年書記団として関わることは、あらためて恵みだつ

た。

たと実感した。これまでの青年の活動が、確実にナイス後小教区を越えて広がっていっている。こうした中で自分たちが抱えている悩み、例えば教会の中では青年が少ない。どうしたらもっと青年会が活発になるか。とにかくしたいができるなどなど、いろいろのこと

が小教区単位ではなく全体的な問題として捕えることができるようになつた。

この燃え上つた火を消さぬよう、青年は青年としてできることからやつていかなければならぬないとあらためて思つた。

青年は青年としてできることからやつていかなければならぬないとあらためて思つた。

――報告会を通して――

ナイスはこれから始まる

誰がナイスをナイスにする

村上透磨



ナイスは終りました。いや終つたわけではありません。すべては

今始つたのです。ナイスの心を伝えるために、今代表者が手分けして報告に回っています。すべての報告は間もなく終るでしょう。

報告会をして少し気にかかることがあります。報告が終つて、質問される事の中に「なにを教会はしてくれるの」と問われる。

いつも教会は何もしてくれぬと聞く度に、すべからく教会とは何かと問いたくなる。なぜ自分が教



会だと思えないのでしょうか。いつも自分がいる所に教会がある、すくのメッセージは自分の周りから始っている。なぜ教会当局は:と言ふのでしょうか。いつも教会は私達に:と言ふのです。すべての人が教会なのに。司教団が答申に答えて出された「共に喜びをもつて生きよう」と言う訴えの中に「私は教会である」という自覚のもとにこの会議が開かれた事が指摘されています。

司教団は何をしてくれるのか、と教区は何をしてくれるのか、と言う問い合わせもわからぬではありませんが、この呼びかけに対し、私達はどうしようかと取り組む姿勢が必要でしょう。

さて司教団は諸提案を二つに分け司教団として取り組むべきものと教区・小教区中心に取り組んだ方がよいものとした。司教団としては3人の司教を中心に推進委員会を設ける。各教区・小教区ではその状況を考えて順次取り組む様にと、うながしています。

京都教区としては、四旬節教書にもある通り、ビジョン以後の見直しとして出された3つの優先課題、交流伝達の問題(パイプのつまり)青少年の問題、適正配置を

取り上げます。更に50周年実行委員会から提案されたものから、アジア交流基金(仮称)設置、何でも相談室の設置、青少年センター作り等の具体化を推し進めていくでしょう。

こういった問題は宣教司牧評でも討議されていますが、各小教区にあっても身近な関係のある問題から取り組んでいき、それを他のグループとも分かれ合う様にしていくべきです。

絵に画いた餅だと言う方もおられます、それを絵に画いた餅にするか、おいしい本当の餅にするかは、私達一人一人にかかるべきです。

報告会をしながら、ナイスは一部の人々がやつた事だという考え方を多くの人々がまだ持つていていう事に気付かれます。

教区はそれにならない様、はじめから(公聴会の段階から)気にしていたし、出来るだけ努力をしましました。ナイスの課題が発表され、それについて各グループに検討する様に願つたところ、実に25グループからの返答がありました。これだけを見ても大変多くの人々が関わったと言う事です。これをま

める作業を代表者はしましたが大変な労力を惜しまれませんでした。会議に臨んだ代表者の方々は自分の意見より、みんなの意見を代表しようと、まとめたものを研究し意見を頭に入れて、述べられたのです。

会議の意見をまとめるのは大変ですし、まとめればかなり選択され、要点化される事は否めません。ところで、司教団はこれを「ともに喜びをもつて生きよう」という標語にまとめました。でもここで又心配になります。それは標語だけが一人歩きするのではないか、と言う事です。それは開かれた教會と言葉テーマが一人歩きしかけたのと同じ事です。(これについて特別号「開かれた教会って何だろう(1987・9・2)」を参照下さい)

どうかまず内容をしっかりと読んで、何をもつて「喜び」と言い「共に」と言おうとしているかを読み取つて下さい。そうしないと苦しみを分かれ合う事が出来なくなってしまいます。福音に生きる事は、つらくて、苦しい事もあるわけですが、嫌だなーと感情的に思うつき合いのりこえていかねばならないからです。

↑ 投稿のお願い ↑

▽御意見、疑問、信仰体験の分かちあい:▽子供の作文等▽三百字以内、たて書き。趣旨を変えない程度に直す場合もあります▽小教区お知らせはハガキでどうぞ▽掲載をもつて採否の連絡にれます。

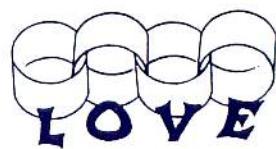
▽採用分には記念品進呈▽住所、氏名、年令、職業、□、所属教会を明記の上、〒606京都市左京区仁王門通り新高倉東入ル京都カト

リック教理センター「教区時報編集部」宛お送り下さい。

最後に報告会に参加して、報告したあと、なぜかわびしいのです。いやだと思われたのではないかとすまない事をしたとわびしいのです。ナイスはとてもナイスでした。いやと思う人が出たら、すべて報告者の私の責任だからです。

なぜ私の様なものが話に行つたのか、いまになればくやまれる、すごく悲しい事が起つたのです。いきいきとしたあの高なり

なにかすばらしい事が起つたのです。それが伝わらぬ様に思えるからです。



開かれた教会——障害者の立場からを読んで——

障害者の方々との

関わりは福音そのもの

村上透磨

よう。

ここでもう一度取り上げて注釈を加える必要はないと思いますが、いくつか心に留まつた事を思い起こしておきたいと思います。

教区ビジョンと共にナイスの浸透をはかる事が教区時報の一つの役割であると考え、少しでも役立つ記事を目指し、「開かれた教会」を種々な立場から見直してみようとして始めたのが『開かれた教会』と言う連載記事でした。そこではまず、障害者の立場から眺めてみようとしたのです。

3名の障害を荷つて信仰を見つめて生きておられる方々、又、そういう方々と関わりながら一信徒として静かに生活している方々の御意見を6回にわたつて連載しました。

障害は多方面にわたり一言で障害者と言う言葉でまとめてしまう事は不可能です。他方障害者と関わりながら、目立たぬ努力をなさっている方々はたくさんあります。

①障害者に住みよい町作りと言う事が叫けられていますが同様な事が「障害者が参加しやすい教会作り」という形で双方の立場から提案されていること。

②障害者にとって何がよりよい事なのか、健常者はまず障害者に聞かねばならないし、障害者の方も勇気を持って言わねばならない。

③健常者の側で、一番注意すべき事の一つに「してあげる」という考え方。これがよいにちがいないと思いつむ善意のおしおり。他方障害者の側では、いつも受身に立つ姿勢や、遠慮や不満の中から十分解放されない状態に陥り易い事。

④障害者はお客様でなく、又愛徳の対象でもなく、共に教会を荷う信仰の仲間だと言う事の意識。「のために」ではなく、「と共に」と

いう心構えが必要であること。

⑤それは例えば教会行事に招いてもらう事でなく、参加すること、家族や施設に訪問してもらう事でなく、教会に出かけられる喜びとも結びついている。

私が受けた印象として、障害者とかかわる人々の姿勢が、自然で、それがとても大切であるという事です。何かしてあげるとか、してあげねばならないとか、と言うのではなく、ごく当たり前の自然な関わり方でよいと思つておられる事です。どちらも肩をはらず、結構楽しみながら関わっていく。

さりとて、無責任になる事もなきちゃんとした関わりを続けていく。それが大切だという事です。誰かが言つている様に、慈善とかボランティアと言う考え方は嫌いです。又愛徳の観点からのみ、みるのも問題があります。そこにはしてあげるのだと考え方やしてもしなくてもよいと言う甘さや、する側の立場で物を考え、障害者

にとつて有りがためいわくでさえある事もありうるからです。ですから愛の観点からだけでなく正義の観点から権利や義務と言う見地から見なければならぬのです。カトリック信者は、愛の観点で言えばばらしい位で終ると言ふ考え方もあります。又弱い立場に置かれている人々を愛の対象としてしまふ間違いもあります。ナイスは、苦しんでいます。人々をではなく、と共に呼びかけました。関わる時、何か悲愴な気持ではなく楽しみながら、肩をはらずに出会つていく事が大切な事に思えます。

もう一つ、教会は「聖なる教会」という意識が強すぎるため、完全な人を求めすぎはしないかと言う事です。(これは障害者を不完全な人と言う意味では決してありません)ただこれが失敗を恐れる事になり、そこからこそちない人間関係が生れ、そのぎこちなさが、冷たさとなり現われてくるかもしれません)たゞこれが失敗を恐れる事になります。人は自分も含めいろいろな意味で弱い人間だから、あたたかく助けあわねばならないのではないかと思われます。障害者との関わりは福音そのものとの関わりなのです。

1988年 京都教区「平和への歩み」の集い

テーマ 共に喜びをもって生きよう

企画「平和への歩み」実行委員会
(司祭評議会、修道女連盟、信徒協議会、諸活動)

主催	日時	テーマ	講師	場所
京都南部ブロック 「平和への歩み」実行委員会	5月8日(日) 14:00~16:00	働きすぎ社会 一人暮らしの生活がしたい— ビデオ	担当者 松村 智之氏	カトリック会館 6Fホール
	6月26日(日) 14:00~16:00	共に生きよう生命と水 実演 手作り石けん「プリン」 スライド 変わりゆく鴨川	担当者 水元 文子氏	カトリック会館 6Fホール
	7月10日(日) 14:00~	在日の思い 一日日常生活の中からー	お話し 在日韓国人二世の方	河原町教会 地下ホール
	8月7日(日) 14:00~	映画と講演 (東京教区司祭) 沖縄戦から平和を考える 平和行進 河原町教会~円山公園	浜本 朝雄氏 (沖縄北谷高校社会科教諭)	カトリック会館 6Fホール
	9月25日(日) 13:00~16:00	映画と講演 炎ゆる街 一部落問題について考えるー	野田 雄一氏 (京都府八幡市役所職員)	カトリック会館 6Fホール
京都北部ブロック 「平和への歩み」実行委員会	未定	サイクルソン アフリカの子供たちのためにー	担当 丹後合同青年会	
	未定	平和記念ミサ		舞鶴ひきおけ公園
奈良ブロック 「平和への歩み」実行委員会	6月18日(土) 19:00 19日(日) 15:00	「聖書と正義と平和」	発題者 雨宮 慧師 (東京教区司祭)	奈良教会
	8月7日(日) 11:00~17:00	映画と展示会		奈良教会
滋賀ブロック 「平和への歩み」実行委員会	11月23日(祝)	びわこウォーカソン		大津教会

共に喜びをもって生きるって何?

「共に喜びをもって生きよう」とてもきれいな言葉です。「共に」も「喜び」も美しい言葉です。呼びかけでも福音的な言葉です。呼びかけとして最もかもしれません。

だけどそれだけにまた、アレレと案じます。「これでいいのかな」と心配ですか。アレレと案じます。「これでいいのかな」と心配ですか。アレレと案じます。「これでいいのかな」と心配ですか。

「共に」と言つたら、またマイホーム的な閉された共にを考えないか。「共に」だから、みんな一緒にやりましょう。一緒にしない人は駄目な人とキリストていなか「共に」つまり、画一化や全体主義をあこがれ、多様性の一致など考へられなくなるのではないか。はじめに心配した事がまた首をもたげるのです。(だから誤解を避けるため、それが何を言おうとしているかを本文をていねいに読んで理解してほしいのです)

「共に」と言う事がどういう事なのか、いつも心を開けて考え、話

ちょっとあなたも

ちょっとわたしも(9)

教会はみな友達だ、福音は喜びだと言う考えにとらわれてい

る。すると実際それと正反対の事を、教会の中で、いや教会の中だからこそ感じる事があるでしょう。その時すごい試練に会います。教会と信仰そのものを疑うのです。だから逆の発想をします。少なくとも「教会は共に喜びを持つて生きている社会ではないのだ」と。(M・T)

し合ってほしいものです。

次に「喜び」と言う言葉。ちょっと問題のあることばです。イエズス様の福音は喜びだとわかるけど、何と誤解を招く言葉でもあることか。喜びを強調するあまり、苦しめや十字架や、犠牲や、いやな事が見落されてしまうのではないか。

「十字架を通して復活へ」とか「十

字架を友とする人は少ない

とか言うパウロの嘆きを語る

までもなく、信仰生活は楽し

く喜びに満ちているばかりで

はない。いやでいやでしかた

がない事に、嫌いや嫌いや大

嫌いやという人に、信仰の、

愛の故に関わらねばならぬ事

もある。それを最近読んだ、

長谷川隼平さん作「はせがわ

くんきらいや」(すばる書房)

を見ながら思つたのです。

お知らせ

教区スケジュール

5月

- 8日 高山右近祭
ガラシヤ祭(北部・味土野)
15日 大和郡山教会堅信式
20日 SVP理事会
22日 河原町教会堅信式
29日 安土セミナリオ記念ミサ
30~31日 司祭研修会(津・研宗館)

司祭の近況

- ロイ・レオナルド師(青谷教会主任司祭)
病気治療のため3月16日アメリカに帰国され3月30日手術をされました。
丸山吉高師(高野教会主任司祭)
富田病院に3月中旬入院されました。
神様が両司祭に、いやしと力を与えくださるようお祈り下さい。

連絡先

- 対象 どなたでもご参加下さい
参加費はいりません

日時 5月15日(日)PM2時~4時
場所 カロンデレットの聖ヨゼフ修道会
京都修道院

ー Br末吉を囲んで
この生命を:

▼この時:この日を:

- ノートルダム教育修道会
閉鎖 ノートルダム小学校修道院
開設 松ヶ崎修道院
〒606 京都市左京区松ヶ崎河原町11-1
(同修道院に日本地区本部オフィス設置)
▼従来の地区長館は清水町修道院
に名称変更

ノートルダム教育修道会

▼第25回召命練成会のご案内

対象	青年男女(高3も含む)
日時	6月18日~19日
場所	カトリック野外礼拝センター <small>奈良市朱雀4丁目3-12</small>
申込先	会費 3,000円 講師 司祭、シスター、神学生

お話し ルカ師(フランス語会)

日時 每月第4火曜日 10時~12時
場所 フランシスコの家
〒606 京都市下京区岩上通り四条下る佐竹町388

ヨゼフ・エグルストン氏(94歳)
3月22日(米、サザンユーフォーリー)
エグルストン師(長浜教会主任司祭)
尊父

▼修道院移転のご案内

ヌーベル愛徳会修道会 小倉修道院移転

移転先

〒602 京都市伏見区深草西浦町3-8-9
シャトー深草フェースト20C号

名称 西浦町修道院

帰天

▼毎月テーマをきめて 新約・旧約を読みませんか

日時 每月第4火曜日 10時~12時
場所 フランシスコの家
〒606 京都市下京区岩上通り四条下る佐竹町388

お話し ルカ師(フランス語会)

=あなたの教会学校のために=

(グリンペイに基づく教会学校教案集)

「ワークブック」

小学1年~6年 各3冊

1冊¥250円 3冊セット¥700円

「現代っ子の信仰教育」

教師用 1年~6年

★お問い合わせは京都カトリック教理センターへ



(い)

家の小さな庭に肩を寄せ合つて
いる鉢植たちが新しい芽をだして
きた。きらきら輝いてとてもまぶ
しい。私も新鮮な気持ちでちよつ
と遅いスタート。